資料3

データサイエンスの観点から見た
景気ウォッチャー調査

株式会社　大和総研
経済調査部　主任研究員　主任データサイエンティスト
新田　尭之

2025年7月18日

目次

1. データサイエンスの観点から見た
景気ウォッチャー調査の価値と活用実績

2. AIを活用した新たな分析案

3. さらなるデータ利活用促進に向けての要望

 Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

1. データサイエンスの観点から見た景気ウォッチャー調査の価値と活用実績

- 景気ウォッチャー調査の景気判断理由集のコメントはテキストの質・量ともに高いレベルであり、経済・金融分野のテキスト分析において重要な存在
- 近年ではコンピューター性能の進化やデータ分析技術の発展を受け、データサイエンス（特に自然言語処理）の観点から活用される機会も増加

景気判断理由集のコメントの特徴

基本的な特徴

- 毎月数千件、全期間では数十万件レベルの大規模なテキスト
- 2000年から月次で無償公開
- PDF形式だけではなく、コンピューターで分析しやすいCSV形式でも提供

テキストデータに関する特徴

- 各テキストに景気判断、業種・職種、判断の理由、地域や分野（家計動向関連等）の情報が付与
- 表記ミスや誤字脱字などが丁寧にクリーニング済

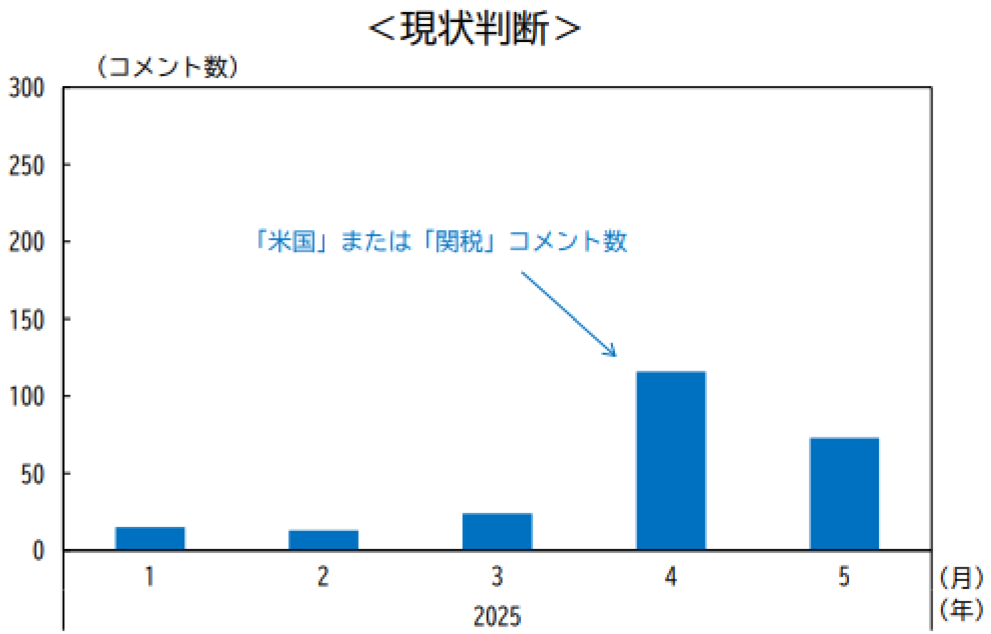
（出所）大和総研作成

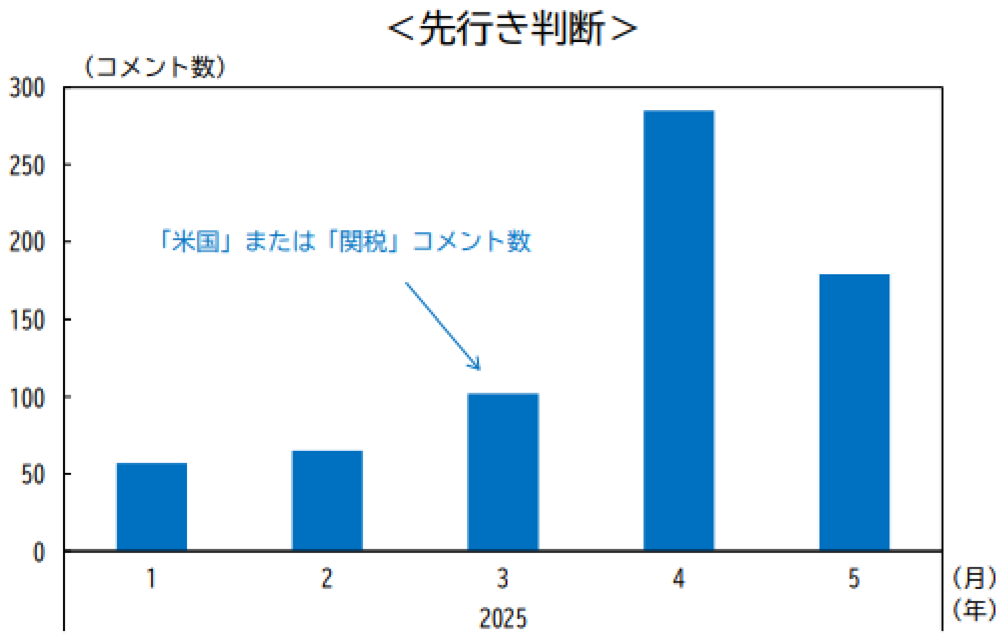
Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

1. データサイエンスの観点から見た景気ウォッチャー調査の価値と活用実績

- ■ 景気ウォッチャー調査の景気判断理由集のコメントは以前より様々な分析が実施
  - ✓ 「米国」「関税」など特定の単語を含むコメント数をカウント
  - ✓ 特定の単語を含むコメントと対応する景気判断からDIを作成

景気ウォッチャーの景気判断理由集のコメントの活用例





（出所）内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（地域担当）（2025）「景気ウォッチャー調査について」より引用

Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

1. データサイエンスの観点から見た景気ウォッチャー調査の価値と活用実績

- 2010年代後半以降は、景気ウォッチャー調査のコメントと景気判断の関係をAIに学習させる研究も散見
- これらの研究の多くは、学習済のAIを用いて月例経済報告やニュース記事などのテキストデータをセンチメント化させ、経済や金融のデータとの関係を検証

景気ウォッチャー調査のコメントと景気判断で学習したAIの活用イメージ

景気ウォッチャー調査のコメント	景気判断
販売量が順調に推移している。	◎
売上が大分伸びてきている。	○
月を追うごとに販売量が減少している。	▲
しい月であった。	✖

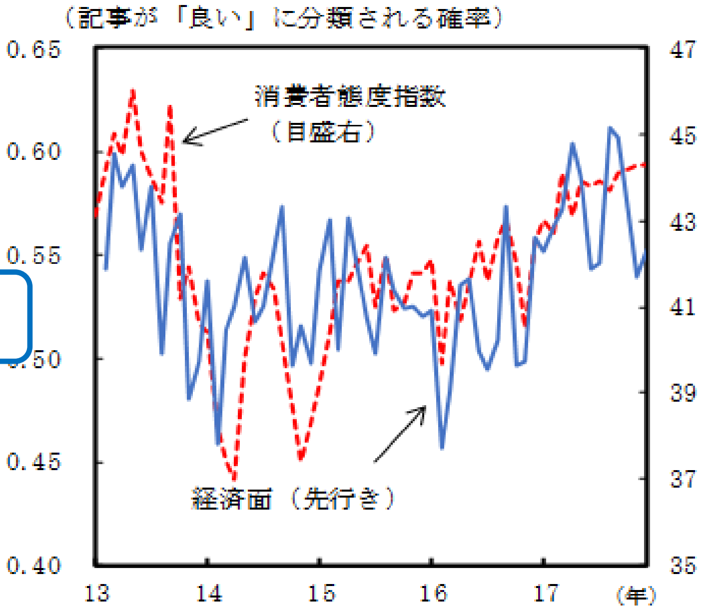
コメントと景気判断の関係をAIに学習させる

新聞記事などのテキストから景気判断の予測値をAIに出力させる

AIによる景気判断を月次などの期間で集計し、センチメント指数を構築する

新聞記事	AIによる景気判断
ホテル稼働率が過去最高を記録した。	◎
新車の販売台数が大分伸びてきている。	○
○○百貨店、消費者の節約志向で売上低迷。個人消費の先行き不透明感が重し。	▲
▲▲化学、主力工場操業停止で生産計画に大打撃。	✖

新聞センチメント指数と消費者態度指数の推移（経済面）



（出所）右図は小寺信也・藤田隼平・井上祐介・新田尭之（2018）「POS・テキストデータを用いた消費分析－機械学習を活用して－」経済財政分析ディスカッション・ペーパー・シリーズDP/18-1より引用、左図は大和総研作成（イラストはいらすとやによる）

Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

2. AIを活用した新たな分析案①要約による作業効率化

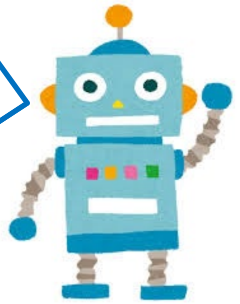
- 最近の生成AIは性能が大幅に向上。具体的には①文章理解能力の向上、②文章の最大処理量の上限引き上げ、③事実と異なる出力の発生頻度低下、など
- これを受け、景気ウォッチャー調査のcsvファイルを生成AIに読み込ませ、膨大なコメントから重要なポイントを迅速にまとめさせるなどの活用が可能に
- もちろん生成AIは常に完璧ではない。人間による最終チェックは不可欠

景気ウォッチャー調査のcsvファイルを生成AIに読み込ませて応答させるイメージ

あなたはAIエコノミストです。提供した景気ウォッチャー調査の景気判断理由集を熟読し、結果を3つのポイントにまとめてください。

景気ウォッチャー調査_2025年6月_現状判断.csv

2025年6月の景気ウォッチャー調査からは、記録的な猛暑や大阪・関西万博といったプラス材料がある一方で、根強い物価高が消費者の行動を大きく変容させ、企業の収益環境にも影を落としている複雑な経済状況が浮かび上がります。以下に、その要点を3つに集約します。（詳細は次のスライド）



（注）　生成AIにはGemini2.5proを使用
（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」より大和総研作成（イラストはいらすとや、カクレノによる）

Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

2. AIを活用した新たな分析案①要約による作業効率化

■ 生成AIで景気ウォッチャー調査（2025年6月、現状判断）のcsvファイルを分析

■ 生成AIは千件を超えるコメントを数十秒間で分析し、要点を①深刻化する物価高と、それに伴う消費者の「生活防衛」意識の徹底、②インバウンド・観光需要の「質の変化」と地域差の拡大、③企業の収益を圧迫するコスト増と、米国の関税政策などへの強い警戒感、の三点にまとめた。また根拠となるコメントも出力

⇒公表資料の作成や調査レポートの執筆の効率化に生成AIが大きく貢献する可能性

生成AIが景気ウォッチャー調査（2025年6月、現状判断）のcsvファイルから重要なポイントを３つにまとめた結果

ポイント1：深刻化する物価高と、それに伴う消費者の「生活防衛」意識の徹底

全国的に物価、特に米価を含む食料品価格の高騰が消費マインドを冷え込ませています。消費者はぜいたく品や衣料品への支出を抑え、低価格商品を選ぶ「生活防衛」の動きを徹底させており、景気の上値を重くしています。

- **衣料品専門店（北海道）**：「客から、安い商品はないかと問いかけられることも多く、価格にシビアな環境が戻ってきている。」
- **タクシー運転手（北海道）**：「物価の高騰や令和の米騒動など、国民生活に直結する問題を巡って…客の生活防衛意識が強まっている。」

ポイント2：インバウンド・観光需要の「質の変化」と地域差の拡大

インバウンドや観光は景気を下支えしていますが、その内容に変化が見られます。大阪・関西万博は近畿に集客効果をもたらす一方、周辺地域からは観光客が流出。また、購買力の高い観光客の減少で客単価が低下するなど、需要に陰りや構造変化の兆しが見られます。

- **百貨店（近畿）**：「大阪・関西万博の開幕後は、来客数が前年を大きく上回っているが、売上をけん引してきたインバウンドの国籍が変化し、免税売上が減少している。増加した欧米の客は単価が低く…」
- **観光型旅館（北陸）**：「４月以降、大阪・関西万博の影響もあるのか、平日の集客に苦戦している。」

ポイント3：企業の収益を圧迫するコスト増と、米国の関税政策などへの強い警戒感

企業部門では、原材料費や人件費などのコスト上昇が利益を圧迫する状況が続いています。特に、米国の関税政策の先行き不透明感が企業の投資マインドを抑制しており、様子見姿勢が強まっています。

- **金融業（北海道）**：「企業から、価格転嫁を進めている一方で、販売量が減少しているとの声を聞くことが増えてきた。…人件費も含めたコスト増加と価格転嫁が見合っていないとの声もみられる。」
- **金融業（中国）**：「米国の関税政策を受けて、先行きの不透明感から投資を抑制する動きがうかがえる。」

（注） 生成AIにはGemini2.5proを使用

（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」より大和総研作成

Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

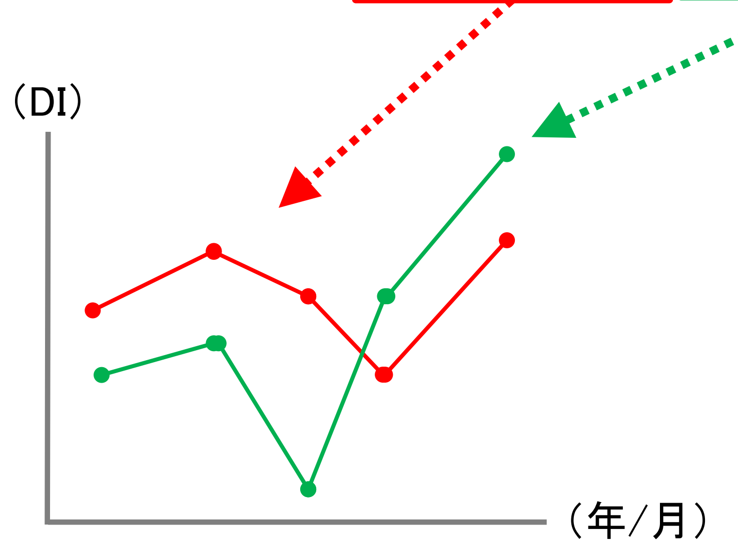
2. AIを活用した新たな分析案②指数化による定量分析の深化

- ■ 生成AIが各コメントに景気や物価などに関する点数やカテゴリを付与することも可能
- ■ こうした点数やカテゴリを集計し、センチメント指数などとして定量化することも一案

景気ウォッチャー調査のcsvファイルを生成AIに読み込ませて応答させるイメージ

景気ウォッチャー調査のコメント	景気判断	AI景気判断	AI物価判断
高単価、高稼働での推移となっている。	◎	90点	物価上昇
どんどん暑くなり、冷たい物が売れている。	○	55点	物価への言及なし
分かりやすく値引きをしないと、前年以上には物が売れない。	□	25点	物価下落
チラシの単価が以前よりも下がってきている。	▲	35点	物価下落
商品価格が上がっており、来客数が減少している。	×	10点	物価上昇

（以下略）



（注） 景気ウォッチャー調査のコメントは一部抜粋
（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」より大和総研作成

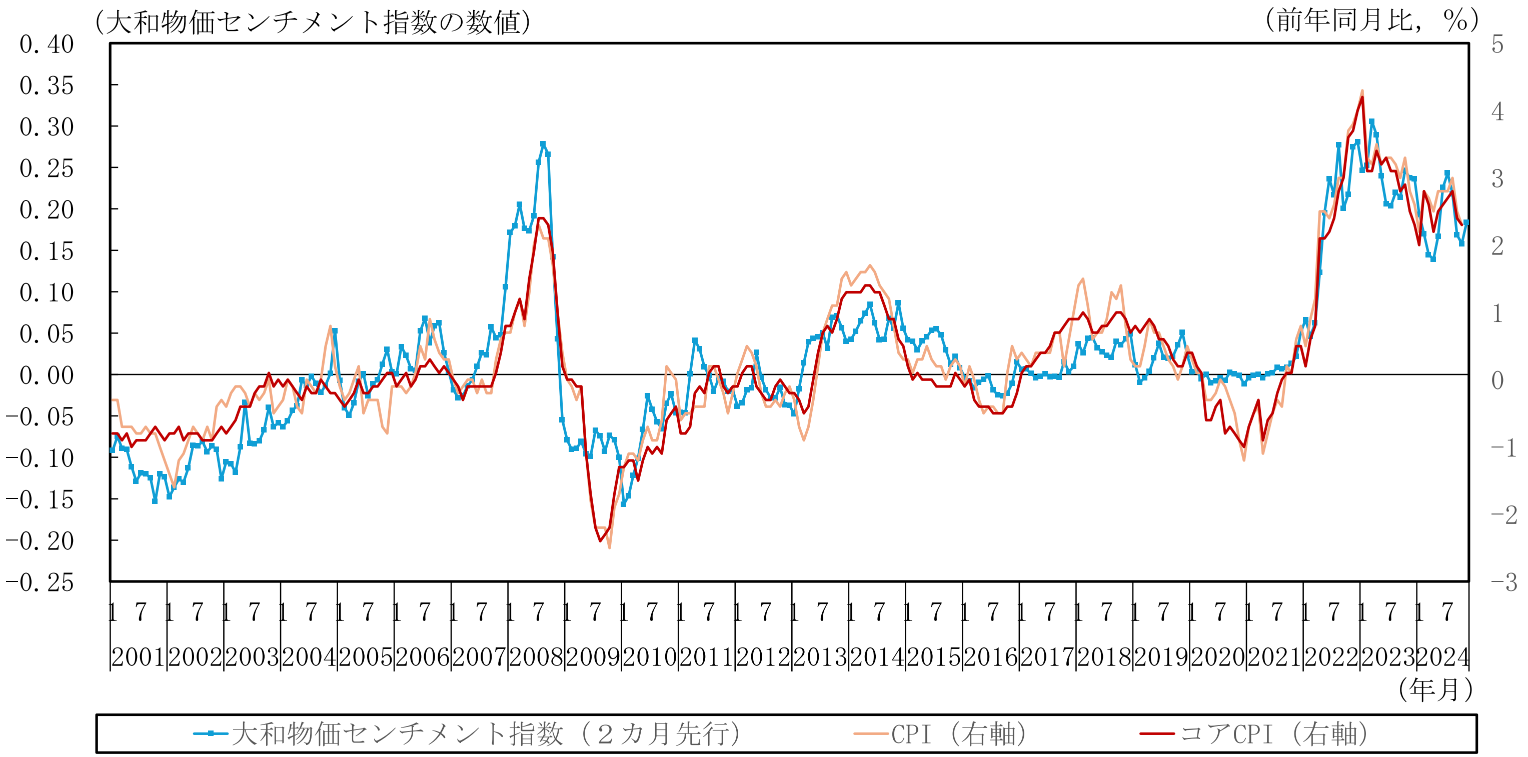
Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

2. AIを活用した新たな分析案②指数化による定量分析の深化

- 島本・新田(2024)は、生成AIに景気ウォッチャー調査の各コメントの物価に関する情報を判断させた。これを月次ベースで集計し、「大和物価センチメント指数」を構築
- この物価センチメント指数はCPIなどと最高で約0.9の相関（2カ月先行）が確認

<u>⇒金融・財政政策の判断をより機動的に行うための判断材料となり得る可能性</u>

大和物価センチメント指数とCPIおよびコアCPIの推移



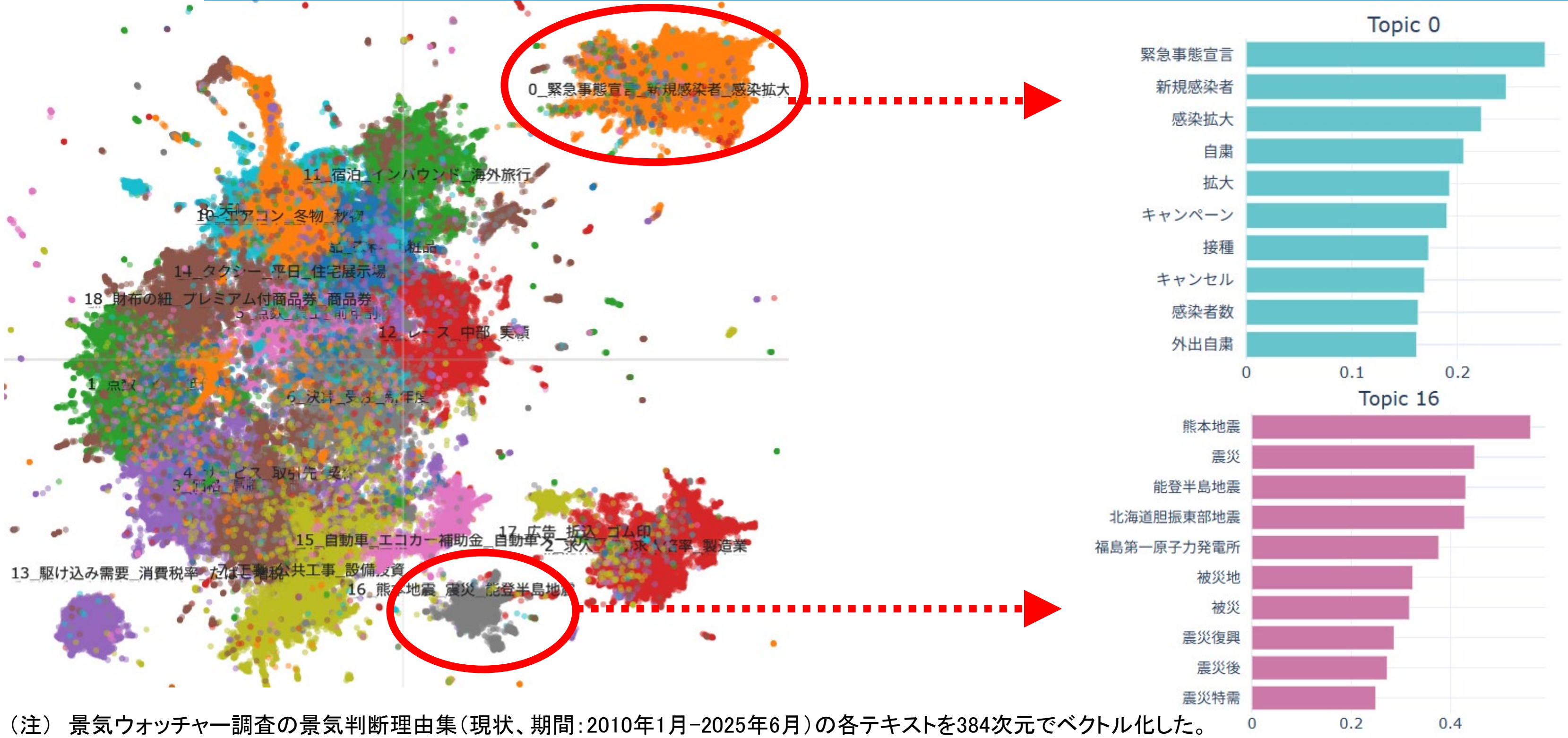
（注） 島本・新田(2024)の図表4を一部加工したもの。詳しい算出方法などは出所のレポートを参照
（出所）島本高志・新田尭之「大和物価センチメント指数開発の試み」（大和総研レポート，2024年12月26日）
島本高志「CPI先行指数としての『大和PSI』の可能性」（大和総研レポート，2025年5月7日）

Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

2. AIを活用した新たな分析案③構造分析による新たなインサイト発見

- 景気判断理由集の各テキストをトピックモデルを用いて分類し、この結果を基に新たなインサイトを発見するアイデアも挙げられる
- 実際に分類したところ、各テキストを雇用や物価、建設、天候、衣料、家電、観光、自動車、震災や新型コロナウイルスなどを表すようにみえるトピックが浮き彫りに

景気判断理由集の各テキストの位置関係を20のトピックごとに示した結果（左図）
当該トピック内の主要な単語（右図、抜粋）



（注） 景気ウォッチャー調査の景気判断理由集（現状、期間：2010年1月-2025年6月）の各テキストを384次元でベクトル化した。
さらにこれを5次元に圧縮したものをトピックモデルにより20のトピックに分類し、各テキストを2次元平面に点として投影した。
点の色はトピックごとに異なる。また埋め込みベクトルやモデルのパラメータなどで結果が変わり得る可能性には留意されたい。
（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」より大和総研作成

Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

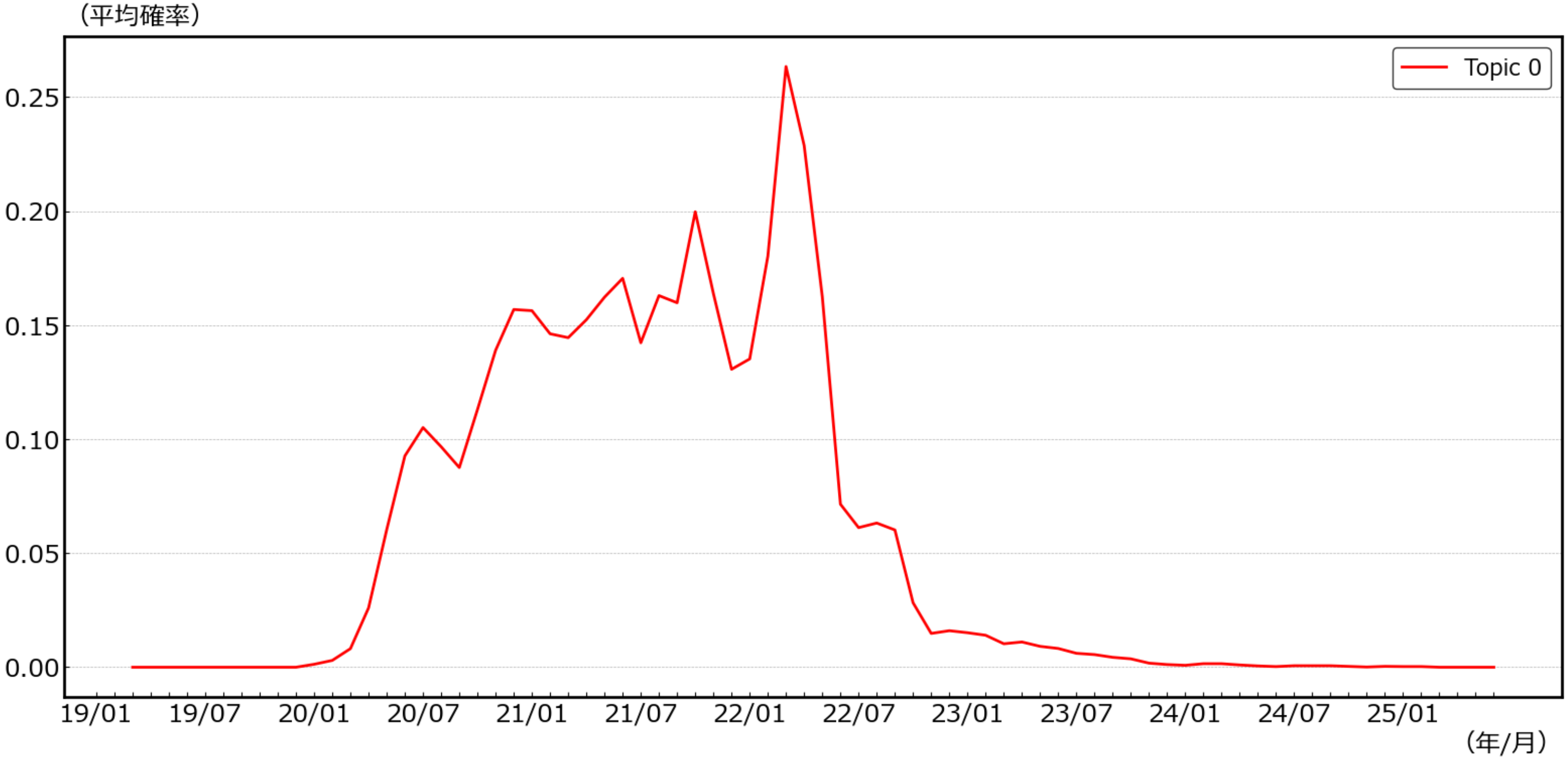
2. AIを活用した新たな分析案③構造分析による新たなインサイト発見

■ 新型コロナウイルス関連のトピックが現れる平均確率の推移をプロット

- ✓ 緊急事態宣言が発出された2020年4月頃に急上昇し、その後も高止まり
- ✓ 2022年初のまん延防止等重点措置実施後にピークに到達。その後は急低下
- ✓ 2023年を通じて緩やかな低下が続き、2024年以降はほぼゼロまで落ち着く

⇒各種イベントが景気や心理に与える影響を把握する材料となる可能性

トピック0（新型コロナウイルス関連）が含まれる平均確率の推移（月次、３カ月後方移動平均）



（注） 上記図表に用いたトピックモデルの説明はスライド9参照
（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」より大和総研作成

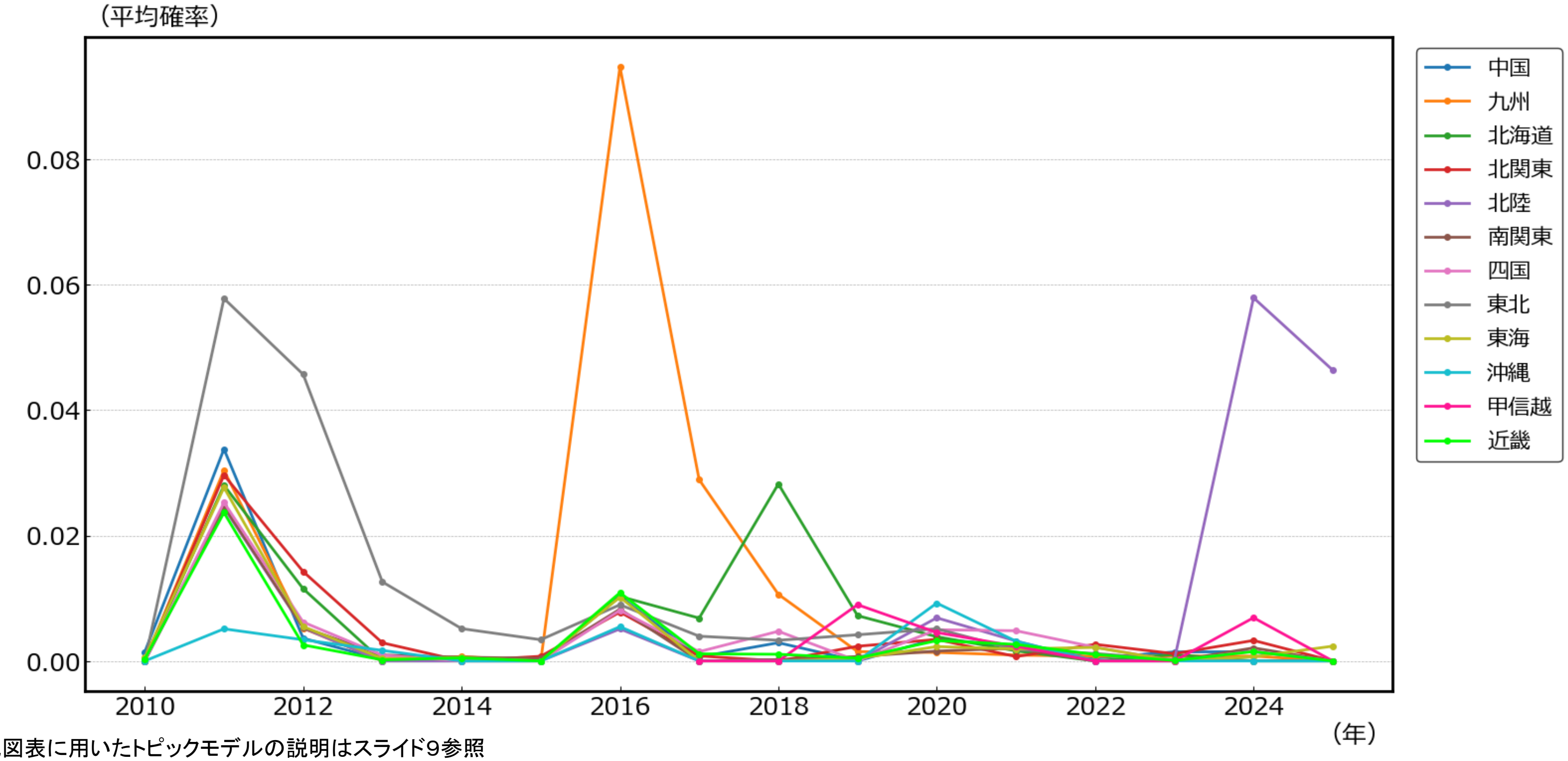
Daiwa Institute of Research Ltd.　Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

2. AIを活用した新たな分析案③構造分析による新たなインサイト発見

■ 前ページと同様に震災関連のトピックが現れる平均確率の推移を地域別にプロット
- ✓ 東日本大震災（2011年）、熊本地震（2016年）などの災害の影響が確認できた
- ✓ 同じ災害でも地域ごとに平均確率の上昇幅や持続性が異なる点も確認できた

⇒経済ショックが各地域に与える影響の度合いや期間を定量的に追跡できる可能性

地域別に見たトピック16（震災関連）が含まれる平均確率の推移（年次）



（注） 上記図表に用いたトピックモデルの説明はスライド9参照
（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」より大和総研作成

Daiwa Institute of Research Ltd. Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

3. さらなるデータ利活用促進に向けての要望①整然とした表形式での公表

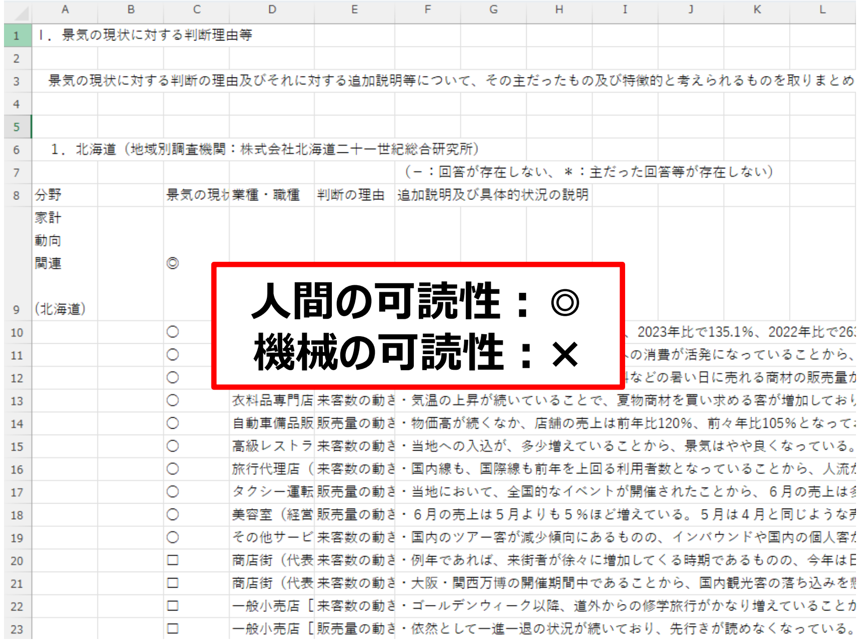
- ■ 現行の景気判断理由集の公表形式は人間には読みやすいが、コンピューターの可読性は低い
  - ✓ PythonやRなどで集計、可視化、モデリングをするためには前処理が必要

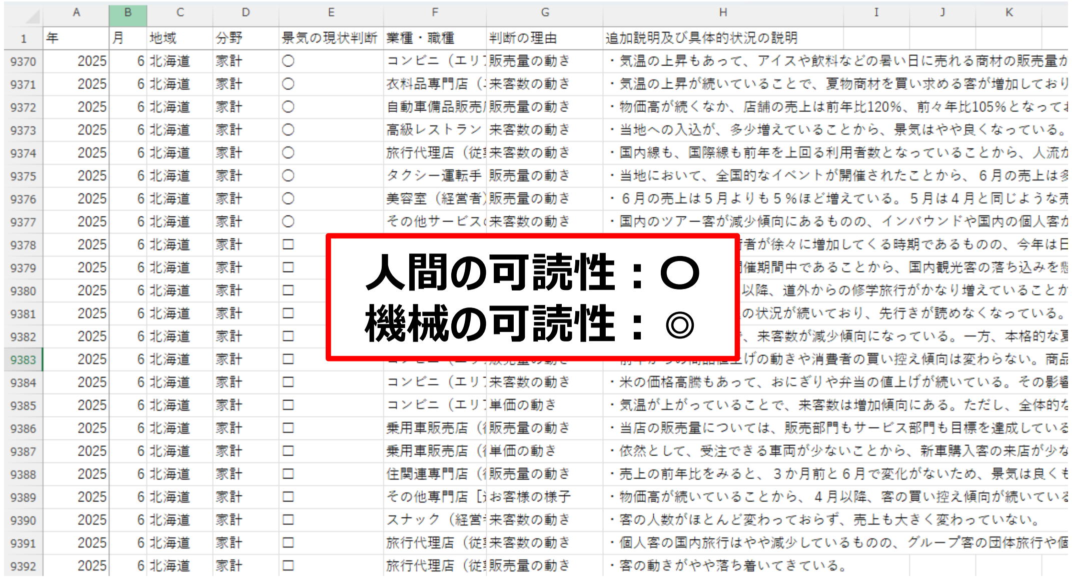
⇒データサイエンスフレンドリーな公表形式が求められる

  - ✓ <u>データ分析の基本となる「1行が1つのデータ（レコード）」、「1列が1つの変数（項目）」である、整然とした表形式（Tidy Data）での公表を強く要望</u>
- ■ 将来的にはPythonなどのプログラムを通じて簡単にダウンロードできるAPIの提供も希望したいものの、当面は整然とした表形式のCSVファイルを提供する方が優先度が遥かに高い

（※）APIとはアプリケーション・プログラミング・インターフェース(Application Programming Interface)のことで、異なるソフトウェアや Web サービスなどをつなぐためのインターフェースを指す。

景気判断理由集の現状の公表形式（左図）および整然とした表に加工した形式（右図）





（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」より大和総研作成

Daiwa Institute of Research Ltd. Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

3. さらなるデータ利活用促進に向けての要望②文字エンコーディングの統一

■ 現状ではCSVファイルの文字エンコーディングは統一されていない
- ✓ PythonやRで長期間の分析を実施する場合にエラーの原因となりかねない
- ✓ 作業ファイルをエクセルで保存するときのファイル形式が統一されていない可能性

⇒過去分も含め、CSVファイルの文字エンコーディングの統一を望みたい

景気ウォッチャー調査（現状）の csvファイルの文字エンコーディング

```
処理中: 2025_01_watcher_c.csv
  検出されたエンコーディング: UTF-8-SIG

処理中: 2025_02_watcher_c.csv
  検出されたエンコーディング: UTF-8-SIG

処理中: 2025_03_watcher_c.csv
  検出されたエンコーディング: CP932

処理中: 2025_04_watcher_c.csv
  検出されたエンコーディング: CP932

処理中: 2025_05_watcher_c.csv
  検出されたエンコーディング: UTF-8-SIG

処理中: 2025_06_watcher_c.csv
  検出されたエンコーディング: UTF-8-SIG
```

エクセル上でCSVファイルとして保存する場合の文字エンコーディングの違い

2025_06_watcher_c

CSV UTF-8 (コンマ区切り) (*.csv)

- Excel ブック (*.xlsx)
- Excel マクロ有効ブック (*.xlsm)
- Excel バイナリ ブック (*.xlsb)
- Excel 97-2003 ブック (*.xls)
- CSV UTF-8 (コンマ区切り) (*.csv) → 文字エンコード：UTF-8-SIG
- XML データ (*.xml)
- 単一ファイル Web ページ (*.mht, *.mhtml)
- Web ページ (*.htm, *.html)
- Excel テンプレート (*.xltx)
- Excel マクロ有効テンプレート (*.xltm)
- Excel 97-2003 テンプレート (*.xlt)
- テキスト (タブ区切り) (*.txt)
- Unicode テキスト (*.txt)
- XML スプレッドシート 2003 (*.xml)
- Microsoft Excel 5.0/95 ブック (*.xls)
- CSV (コンマ区切り) (*.csv) → 文字エンコード：CP932

（出所）大和総研作成

Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

3. さらなるデータ利活用促進に向けての要望③年単位での過去データの公表

- 景気判断理由集のCSVファイルは、月ごとに別のウェブサイトに掲載されている
- 長期間のデータを入手しようとした場合はダウンロードなどにかなりの手間がかかる

⇒このため過去分については年単位での公表が強く望まれる

景気判断理由集が掲載されているCSVファイルのダウンロード作業の流れと改善案

- 長期間の分析を実施しようとした場合、通常は各公表月のウェブサイトからCSVファイルをダウンロードする手順を幾度も繰り返す必要

⇒過去の景気判断理由集のデータに関しては年単位の公表が求められる
⇒データのダウンロードやデータの結合などの作業負担の軽減が期待

（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」のウェブサイトより大和総研作成（イラストはカクレノによる）

Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

ご静聴ありがとうございました

Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.

本資料は投資勧誘を意図して提供するものではありません。

本資料記載の情報は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり今後予告なく変更されることがあります。

(株)大和総研と大和証券(株)は、(株)大和証券グループ本社を親会社とする大和証券グループの会社です。

内容に関する一切の権利は(株)大和総研にあります。無断での複製・転載・転送等はご遠慮ください。

 Copyright © 2025 Daiwa Institute of Research Ltd. All rights reserved.